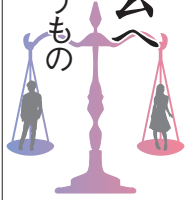


差別なき社会へ 入試不正が問うもの



2018年に発覚した一連の医学部不正入試問題は、日本社会に根を張る女性差別を白日の下にさらし、社会に衝撃を与えました。訴訟で被害者を支援し、弁護団の共同代表を務めているのが角田由紀子弁護士です。女性差別問題の第一人者の角田氏に、弁護士として女性の人権保障に捧げた47年の歩みを語ってもらいました。

特集インタビュー

医学部入試における女性差別対策弁護団 共同代表 角田由紀子氏



「妊産婦」署名に協力を

医療助成創設へ矢部副理事長が訴え



協会は医科協会と協力し、妊産婦医療費助成制度の創設を大阪府に求める請願署名に取り組み、矢部あづさ副理事長(写真)が協力を呼びかける。

厚生労働省は、女性が生涯に産む子どもの数を示す合計特殊出生率が1・30(2021年)だったと公表しました。マス

コミが「同調査で初めて出生数80万人割れ」と報じている通り、少子化は深刻さを増しています。少子化の大きな要因として、子育て世代の不安



今号同封の署名用紙
2023年3月末〆切

定雇用・低賃金が指摘されています。出産費用が重い負担になっていることから、国は出産一時金の引き上げを議論しています。お金の心配なく、安心して出産するには、出産一時金の増額とともに、医療費助成制度の創設が求められています。妊娠期は口腔状態が悪

化しやすくなるため、継続した歯科治療が不可欠です。治療費の不安なく受診できるように、妊婦の心身の健康と子どもの健やかな成長に大きく寄与します。子どもを産み育てやすい大阪にするため、診療所で署名の取り組みを広げてください。

希望生む女性のたたかい



東京医大に対する訴訟の判決後の記者会見に挑む角田氏(右から2人目)

東京医大に対する訴訟の判決後の記者会見に挑む角田氏(右から2人目)

1942年、北九州市生まれ。父は九州大学の教授で「家父長制が色濃い家庭」で育ちました。幸いだったのは母の存在。戦前の女子大で学んだ母は、角田氏に自立することの大切さを説きました。

母は当時の女性の間では「開けた」人で、意に反して家制度に縛られて

自立を促した母の教え

た。ひと学年500人、女子生徒は40人くらい。最初のテストで1番の成績を取りました。そうしたら私の前でクラス担任の教師は男子生徒に「女だから成績が落ちる。お前ががんばれよ」と激励したんですよ。ものすごく悔しくて、何か仕事をみつけないと、何か試験を目標にしようと思った。法学部の教室に潜り込んで授業を受け、学生結婚した夫との間に生まれた2人の子どもの成長を促しながら司法試験の勉強を続けました。

2022年9月、東京医科大学の不正入試をめぐる訴訟の一審判決で東京地裁は性別による得点調整を「自由な進路選択を妨害した」として慰謝料等の賠償を大学に命じました。勝訴判決を勝ち取りましたが、記者会見で角田氏は厳しい表情を浮かべました。

裁判は勝って当たり前前だと思っていました。判決には怒りがあふつと湧き上がりました。女性差別である得点調整自体の違法性を問いたかったのに、判決は得点調整を公表せずに受験させたことが選択の自由を侵害したと述べるだけで、性別による得点調整が違法であると明言しませんでしたから。原告の精神的苦痛に対しても、慰謝料は20万円と非常に低い金額でした。「20万なんて冗談でしょ」「馬鹿にするんじゃない」と思いましたよ。性別差別されることで大きく傷付けられる原告の尊厳、痛みに極めて鈍感な判断です。

最初に入試差別の話をした時、女性というだけで点数が操作されていることに驚きました。同時に、弁護士として女性差別問題に何十年も関わってきた少しは社会の理解が進んだかと思っていたのに、何も獲得できていなかったのではと愕然としました。今までは何だったのかなと。

さらにショックだったのは、教育の場で当然のように差別が行われ、なおかつ人の命や人権を最も尊重すべき医師を育てる人もいて、原告と知られれば今後不利益な扱いをされるのではと非常に不安を抱いていました。

差別に背を向ける判決

つのだ・ゆきこ 東京大学文学部卒業。1975年に弁護士登録。女性の権利に関する事件を多く手がけ、1989年の日本初のセクハラ訴訟を勝訴に導く。日本弁護士連合会では両性平等委員会の委員を務める。著書に「性差別と暴力」(2001年、有斐閣)、「性と法律」(2013年、岩波新書)など。

この訴訟は他の裁判と全く異なる点がありました。それは正当な権利主張であるにもかかわらず、長谷川麻矢医師以外原告は名前を公表できなかったことです。被害にあった方には他大学を出て医師として働いてい

会員学習会のご案内

2022年度改定を踏まえた 歯科医療のこれからを考える

日時 2月11日(祝・土)
13:00~15:00
会場 M&Dホール
講師 田辺隆氏(全国保険医団体連合会副会長)
会費 無料、会員院所未入会勤務医1万円
申込 事務局(TEL06-6568-7731)

歯界

近所の家の玄関にしめ飾りと門松がある。年々、お正月飾りを目にする機会が少なくなるなか、珍しい光景についてほほえましくなる。

日本の正月では幸せをもたらす年神様を家に迎える風習がある。玄関のしめ飾りは年神様を招く目印で、清められた場所を意味する。魔除けの結果にもなるそうだ。最近では信仰心というよりも、正月気分を味わう目的で購入する人が多いとか。

昨年来、政府は「防衛力の強化」を名目に軍備拡張路線を進む。専守防衛の原則を突き破り、敵基地攻撃能力まで保有する必要性があるという。それで本心に「魔除け」になるというのだろうか。相手の国土を攻撃すれば、その先には反撃の応酬が待ち受ける。

戦後78年にわたって日本に平和をもたらしてきたのは憲法の力である。「戦争しない」という9条の理念でつながる「結果」を上げ、平和な世界を実現する年にしたい。

年末年始のお知らせ

協会の年末年始の業務と本紙の発行は次の通りです。
【休務】12/29~1/5
【新聞】2022年12/25付、2023年1/15付は休刊。